



題材法話

○正信偈を味わう⑦

前回のお話しを簡単に
 さらいますと、一如来所
 以興出世唯説弥陀本願海
 五濁惡時群生海 応信如来
 如実言」という4句で、
 「お釈迦様が、この世に
 生まれて来たのは、阿弥
 陀様の御本願を説くため
 であり、私たちはお釈迦様
 真実の言葉を信じ、それ
 応えていかなければなり
 せん」ということでした。
 それでは、そのお釈迦様
 の真実の言葉に應えれば、
 私達はどのような救われる
 のかというのが、今回の、
 「能発一念喜愛心 不斷煩
 惱得涅槃 凡聖逆謗 齊廻入
 如衆水入海一味」です。
 まず、この4句を分かり
 やすく意識しますと、阿
 「よく信心をおこして、阿
 弥陀様の救いを喜ぶ人は、
 自らの煩惱を断ちきらない
 ままでお浄土でさとし
 りを得ることができ
 ます。凡夫も聖者も
 五逆という罪を犯し



た人も、仏法をそしつてい
 た人も、みんな阿弥陀さま
 の本願海に入れば、ちよう
 ど、あらゆる川の味が、海
 に流れ入って一つの味にな
 るようになります」というこ
 われるのです。というこ
 になりす。この4句は、阿
 ご本願の最も特色ある内容
 で、私自身、正信偈をお勤
 めする時、いつも有り難く
 読ませて頂いております。
 ○これぞ阿弥陀さま
 「そこでまず最初の2句、
 「自らの煩惱を断ちきりな
 いまま、お浄土でさとりな
 を得ることができま」と
 は、まさに「これぞ阿弥
 陀さま」なのです。これは、
 達の「煩惱」というのは、私
 達の自己中心的なもので、こ
 の心から生じるもので、これ
 の煩惱があるがために、私
 達は悩み、迷い、時には争
 いを起こし、苦しみが絶え
 ないのです。いわば「諸悪
 の根源」なのです。
 一方、「涅槃」と
 いうのは、「煩惱の火
 が消えて静かな安ら
 ぎを得た状態で、さ



とりの世界、仏さまの世界
 であり、私達の究極目標と
 する世界であります。『煩
 悩』と『涅槃』の関係は、煩
 悩が涅槃の因で、涅槃が煩
 悩の果であるために、涅槃
 があるから、涅槃が得られ
 ないのです。全く反対
 の世界といえます。昔か
 ら多くの人が、出家して嚴
 しい修行の道にいそしまれ
 たのですが、果たしてだれ
 この世で涅槃に到達され
 方がおられたでしょうか。
 残念ながら、凡夫といわ
 れる私達には、自分自身で
 煩惱を断ちきることなどは
 不可能であること、はつ
 きりと歴史が証明してい
 るのです。
 そんな絶望状態の私達に
 代わって、一切の者を全
 救うとの誓いを建て、仏
 成られたのが阿弥陀さま
 のです。
 煩惱得涅槃」と、私達に、
 煩惱を断たなくてもいい
 「煩惱と涅槃は正反
 対の関係のはずなの



に、一体どういうことなの
 でしょ。ここが大変面白い
 所なので。○闇は光によつて
 打ち破られます
 窓も雨戸も閉ざされた、
 真つ暗闇の部屋を思い浮か
 べて下さい。闇はいつまでも
 暗闇は、闇自身を打ち
 破ることはできません。
 ままで、闇は、窓も雨戸も開
 と、太陽の光が一杯に差
 しかれ、太陽の光が一杯に
 しまれたとしたら、今ま
 での闇の世界が、一転して
 明るさに満ちあふれた世界
 に変えられます。
 これ、これは、暗闇自体が闇を
 打ち消して、明るい世界へと
 変わつたのではありません、暗
 は暗闇のままではなく、暗
 よつて明のままだ世界へと
 られたのです。
 み、それです。煩惱にま
 消されたままでは、煩惱を打ち
 が、そのままで、阿弥陀さ
 まの本願という光に包み込
 られていくのです。以下次
 号